八清親和会　自治会役員のひとり言

平成３０年５月１８日　Ｎｏ１１　八清親和会　副会長　吉田祐治

昭島自治連 HP の自治会紹介ページ、八清親和会紹介の平成３０年度の更新を行いました。この更新を機に、従来の「八清親和会案内」を PART－１として、新たに PART-2 として「八清親和会が目指している、時代に合った新しい自治会とは！」の自治会紹介を載せました。

八清親和会は、過去５年間、この PART２で紹介した新しい自治会を目指して、自治会の再活性化に取り組んできました。今後も八清親和会は、この新しい自治会を目指し、さらに活動を進めます。
いろいろな方から、八清親和会は何故元気なのか！　どのようにして活動が活発になったのか！また、どのようにして活動密度を高めたのか！　など、いろいろ聞かれます。
また、会員からも自治会が変わったと言う声もいただけるようになりました。

しかし、我々が目指している目標に対し、取り組まなければならないことがまだまだ多く、また、時代と自治会を取り巻く、環境変化のスピードについていくのがやっとであると言うのが実態です。
ここまで持って来るのに苦節５年、一言で言い現すことができませんが、今振り返れば、一人の地道な行動がやがて波紋のように広がり会員を巻き込んだ結果による成果です。そして、三役の一致団結と、相談役始め会員の協力あっての成果です。

例えば、「自治会の再活性化」「自治会会員の加入促進」「減り続ける会員退会の歯止め」だとか、“言うは易く、行動には勇気がいる”ということです。
そして、まずは自治会役員が一人でも、実際に未加入世帯を訪問し加入活動や退会者の慰留活動を体験することです。
その結果、既存自治会で、一世帯加入させるのが如何に大変か、また、退会を慰留させるのが、如何に大変か、嫌なことが如何に多いか、何が不足し、何が問題なのか、実際に体験して見なければ、何をしなければならないかが、わかりません。
また、加入させるよりも、退会を慰留させる方が、迅速な行動とその何倍もの説得の労力が必要か、なぜそこまでも言われなければならないか、聞かなければいけないのか等の、いやなことが多いことが、分かっている人は少ないのではないだろうか。
多分、ほとんどの自治会は、出てきた退会届をそのまま向け取っているのではないでしょうか。「退会の歯止め」活動に取り組むのであれば、まず実行に移すことは、退会届を受け取るのではなく、自治会役員が直接、間接でも退会者本人と話し、退会理由の本音を聞き、慰留行動をとることです。そして、その内容を今後の退会防止の検討材料として記録にとどめることです。民間企業では、退職願いを受理する前に必ず上司が面接し理由を聞き受理するシステムを取っているはずです。この応用を一つ取り入れることだけでも、経営感覚を取り入れた、新しい風を自治会に取り入れることになるのです。

だから、今まで我が自治会も含め、各自治会が真剣にやりたがらない、そこまでやる必要があるのだろうか、あるいはやる人がいないため、どこも成功していないのであり、また、成功事例を探しても見つからないのが実態ではないだろうか。

八清親和会は、５年前これらを意識し正確な問題点の把握、原因分析をし、会員を増やす加入促進活動よりも、「減り続ける会員の『歯止め』を掛ける」活動を集中して行ってきました。
加入促進活動は、未加入者の加入活動に重点が行きがちですが、最初に力を入れ、取り組むのは「退会者に歯止めをかける」ことです。
即ち、**「出血（退会者）を止めなければ、いくら輸血（新規加入）しても、自治会の体力が弱って（衰退）いく」**からです。　（退会者は多く、新規加入者が少ない、会員減少で自治会が衰退していく構図です）
そして、**「体力（自治会）を付けて（自治会活動の活性化）」**から会員を増やす加入促進活動をすべきです。

会員を増やす加入促進活動をするにしても、減り続ける会員の退会の歯止め活動をするにしても、まず、時代と共に変化してきた自治会の位置付けや環境を正しく認識し、それに順応した活動をする必要があると考えます。その一例として「八清親和会の紹介 PART－２」を紹介すると共に、役員のひとり言として紹介します。

これから、加入促進や退会の歯止めに、あるいは自治会の衰退から再活性化に取り組もうとしている、また、現在取り組んでいる自治会の事例として参考になればと思います。
まず、八清親和会の再活性化に取り組んだ５年間の経験から、加入促進や退会の歯止めの活動を行うに当たって、あるいは現在活動しているが、なぜ成果が出てこないかと悩んでいる自治会に対し、私が伝えられること、それは、今、世の中の自治会が置かれている環境変化や、地域住民が感じている自治会に対する考え方、見方をまず正しく認識して、それに順応したやり方を考え、これに沿った活動、実行が不足しているか、あるいは実行していないからだと思われます。

Ａ ”時代とともに変わった、自治会の位置付け、環境について”の再認識

私の経験や、会員からの声を拾った状況から、時代とともに自治会の位置付けや環境が一番変わったと思われるのは、以下５項目に集約されるのではないでしょうか。

１．戦前戦後の「地域住民が全員加入していた時代の自治会（隣組）」から、昭和後期の「自治会には、入るものという考え方の時代の自治会」そして、平成に入り、今や「自治会に、入る、入らないかは本人（世帯）の自治会に対する価値判断や、意思に委ねられている、任意加入時代の自治会」であることをしっかり受け止める必要があります。
即ち、上から目線の加入しなさいの時代から、役員が頭を下げて、今の自治会は、このような利点、魅力、楽しさがあるから加入していただけませんか、の自治会売り込みやお願いの時代です。したがって、加入するか否かの意思決定などの主導権は、未加入者にあると言うことをしっかりと認識する必要があります。

２．地域住民が全員加入していた旧き良き時代の自治会は、八清親和会もそうでしたが「お隣り近所の助け合い」「お互いさま」が自治会の基本でした。
自治会役員の輪番は当たり前、不幸があった場合葬儀は、自宅で行い、町内会（組）総出で手伝い、滞りなく送り出すのが当たり前の時代でした。
しかし、今は煩わしい役員などはやりたくない、関わりたくない、で葬儀などはすべて葬儀屋に委託し葬儀屋の施設で行うため、近年「お隣り近所の助け合い」「お互いさま」等の、お隣近所の接触が希薄化になっています。このため、ネイバーズ（お隣り、ご近所）コミュニティが崩壊しつつあると言っても過言ではありません。

３．自治会活動・運営：役員の考え方も「地域住民が全員加入していた時代」の、行政団体的な旧態依然の体制・運営・考え方で行われている自治会が、今だ、多数を占め、現役層や若い世代が考えている、集いたい、活動したい自治会のイメージと遊離していることに気付いていないのも原因です。
また、変わらなければならないのは、自治会の役員の担い手がいない、会員が減少していく等と、大変だと問題提起ができてもアイデアも出ない、行動も起こさない、役員あなた方の意識・行動が、真っ先に変わらなければならないことに、気付いていないことも最大の原因なのです。
一番いい例が、今や世の中がIT・AI時代に於いては、PCは今や昔の「鉛筆」代わりです。このPCを使い熟せなければ、会員への情報発信等できるはずがない、このIT（技術情報）時代でもっとも遅れているのが自治会であることに自治会役員自身が気づいていないのが問題である。
残念ながら八清親和会も以前は、この傾向にあり、会員が知りたい、流すべき情報が末端会員迄届いておらず周知されていませんでした。

４．そして今や自治会は、「任意団体であり、自治会の活動を活発化させるのも自治会の努力、会員の退会を食い止め、会員を増やすのも自治会の努力である」ということを、忘れてはいませんか！
自治会は必要なのだから、行政や自治連がやってくれるだろう、助けてくれるだろう、と言う考えは間違っていると思います。
あくまでも、主体は自治会であり、行政や自治連は必要なバックアップはするが、あるいはできるが、自身が所属している自治会を元気にするか、衰退させるかは、自治会の役員・会員の熱意と努力に掛かっているということもしっかり認識する必要があります。

５．このように今や自治会は「任意団体」であるため、行事の参加者を増やすのも、退会の引き留めも、新規加入活動も、すべて毎回同じことを繰り返すやり方や、行動では通用しなくなってきているのではないでしょうか。　これからは、自分たちの自治会を、会員や未加入者に、如何にアピールするかに掛か

っているかと思われます。
　即ち、自分たちの自治会の魅力、楽しさ等個性的な、あるいは他の自治会との比較を図り、自分たちの自治会の良さを強調する努力が必要な時代、環境に入っているのではないでしょうか。

先ず八清親和会は”時代とともに変わった、自治会の位置付け、環境について”の これら５項目をしっかり認識して、この時代に合った新しい自治会として、何を目指し、会員を一つにまとめる目標を何にすべきか、何を改善、改革しなければならないかを明確にして活動を進めています。

次回は、“B”として、今、八清親和会が脱却しなければならない、変革しなければならない、目指さなければならない、もっと活性化しなければならない、の４項目に絞り込んだ内容について紹介します。

今回はここまで。